

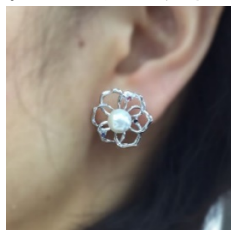
作成日		発行
2020. 10. 01 No.304		株式会社秋山製作所 企画・デザイン室

アコヤ貝

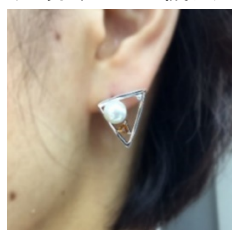
昨年引き続きアコヤ貝の大量死というニュースが今年も流れました。通常アコヤ貝を使った真珠の養殖では、まず「稚貝」を1年から2年ほど育てて「母貝」にします。この母貝に核入れし、そこからさらに半年から1年ほどかけて、ようやく真珠はできます。このサイクルを毎年続けることにより真珠が出来上がる仕組みになっています。昨年は母貝になるはずだった稚貝が大きな被害を受け、今年は核入れ出来るアコヤ貝がいつもより少ない中での養殖でしたが、さらに追い打ちをかける状況となっております。養殖業者も原因がハッキリ分かっている状況ではない為、頭を悩ませているようです。

三重県の発表によると、養殖しているアコヤ貝の稚貝の36%にあたる約250万個が死んでいることが明らかになったそうです。真珠の養殖は年単位で時間がかかることを考えると来年、再来年に獲れる真珠の量は確実に減る状況です。大量に同じ物が作れる工業製品では無いので、一刻も早い原因究明と対策が出来ることを祈るばかりです。当社としても深い関わりのある真珠のニュースなので気が気でないですが、この真珠の魅力を伝える為にも真珠が映える商品を作り続けなければならないと思っています。

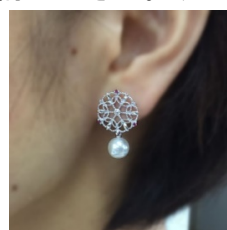
さて、今回ご紹介させていただきます新商品は、あえて耳に貼りつくようなデザインに石を入れることで真珠との相性もバッチリなピアスです。是非、この機会に一度ご検討ください。(Y・T)



LEP0118



LEP0119



LEP0120

キンモクセイ

この季節にどこからか香ってくる甘く芳しい香りが魅力の金木犀(キンモクセイ)。小さなオレンジ色の花を付け9月中旬~10月下旬に開花し、一度目の花が咲き終えた後、もう一度新しい花が咲く“2分咲き”が楽しめる品種のある木樹です。

中国南部が原産で、江戸時代に日本に伝わり輸入された際に雄株しか入ってこなかったことから、日本にあるキンモクセイには実(種)が付きません！

日本では観賞用として親しまれていますが、中国では丹桂(タンケイ)・桂花(ケイカ)という別名があり、その香りを活かしお茶やお酒(白ワイン)・お菓子に使ったり、漢方薬としても使っているそうです。気になる効能は、低血圧の改善・不眠・健胃に効果があるそうで、薬用としては歯痛やうがい薬としても用いられているそうです。そんなキンモクセイの花言葉は、小さな花のつつましさから『謙虚・謙遜』、香りで開花を知らせ周囲に嘘を付けないことから『真実』、お酒や香水など香りで酔わせる『陶醉』といった意味を持ちます。

香りで季節を感じてみるのも素敵ですね♪ (Y・M)

ミステリー記念日

世界最初の推理小説と言われる『モルグ街の怪事件』の著者である“エドガー・アラン・ポー”の命日に因み、1849年に制定された記念日です。

実はこの方の名前を真似した有名な作家がいるのをご存じですか？実は“江戸川乱歩”です。本名は“平井太郎”、三重県の出身で早稲田大学部政治経済学科を卒業しているそうです。

乱歩は小学生の頃に母親に読み聞かされた『秘中の秘』が探偵小説に触れるきっかけになったそうです。1923年に『二銭銅貨』でデビューし、その後『心理試験』『赤い部屋』『人間椅子』『鏡地獄』といったファンを魅了する作品を出しています。テレビでは『怪人十二面相』の登場人物“明智小五郎”をシリーズにしたドラマが放映されるなど小説を知らない人でも知るきっかけを作っています。

長くなってきた夜のお供にミステリー小説はいかがですか？ (Y・M)

